

平成30年度お薬手帳の活用 促進事業の効果解析結果に ついて

平成30年度お薬手帳の活用促進事業

【目的】

お薬手帳の持参を促し、薬局における服薬情報の一元管理を促進する。

【取組】

お薬手帳を持参することの意義やメリットについて普及啓発するためのリーフレット及びお薬手帳の持参を促す「ポケット付きお薬手帳ホルダー」(保険証、診察券などと併せてお薬手帳を携行できる)を重複服薬者に送付する。

●送付対象者の抽出条件

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、平成30年4月から7月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者で、以下の者を除く。

- ・がん、認知症、うつ、統合失調症の者
- ・死亡している又は資格喪失している者
- ・住所が県外の者(県外施設入所者)

●送付者数 10,344名(平成30年12月に送付済み)

○送付対象者からのご意見

- ・ホルダーは便利なので自分以外の家族の分も送ってほしい。(10件)
- ・お薬手帳はきちんと活用しているのでホルダーは不要。税金の無駄遣いは止めてほしい。(1件)

●今後の予定

○効果解析

- ・送付後3か月(平成31年1月～3月)における抽出条件該当者の増減や送付対象者のお薬手帳の持参状況を確認。
- ・送付対象者の抽出時(平成30年4月～7月)から一年後(平成31年4月～7月)の処方変化を確認。

○事業の継続

効果解析の結果を踏まえ、抽出条件や抽出期間を検討して新たな対象者に送付を行う(平成31年度)。



解析内容

1. 送付対象者の推移

- ① 「各月における重複該当者」及び「そのうちの送付対象者の割合」の推移
- ② 送付前後の該当月数の変化

2. お薬手帳持参状況

- ① お薬手帳持参状況変化
- ② お薬手帳持参率の変化

3. 重複薬剤の状況

今回の解析期間等

重複該当者:

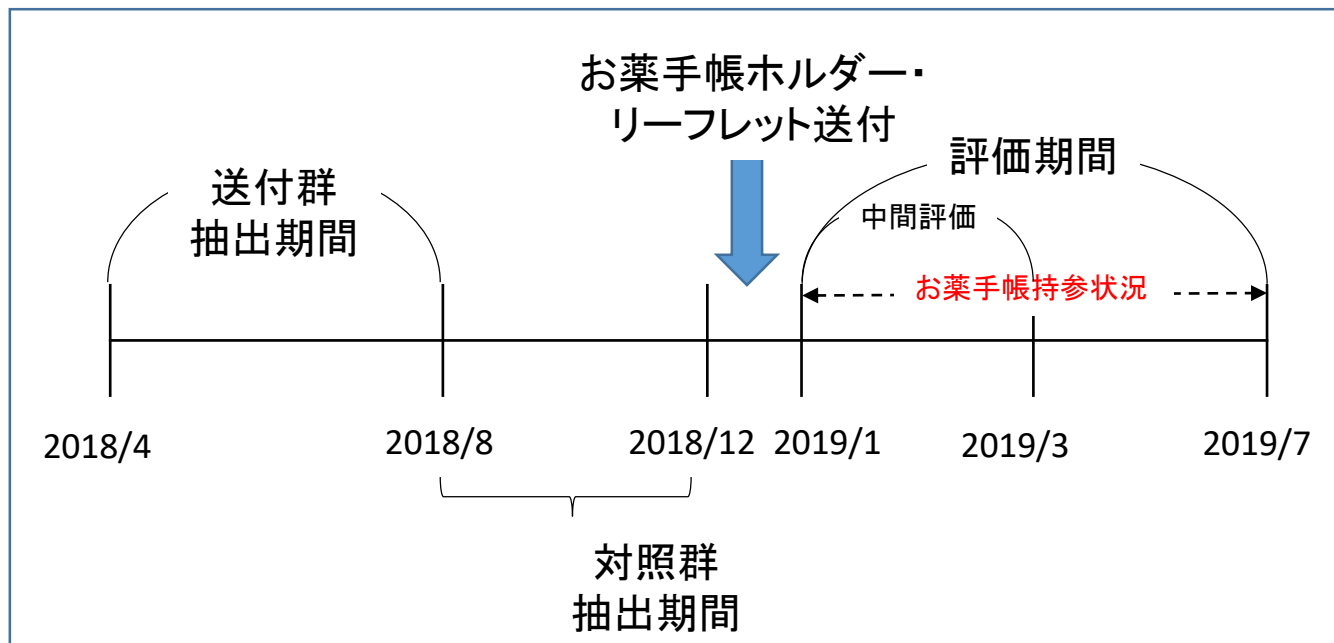
後期高齢者医療広域連合被保険者のうち複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者

送付対象者:

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、平成30年4月から7月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者で、お薬手帳ホルダーを送付した者

対照群:

後期高齢者医療広域連合被保険者のうち、平成30年8月から11月までの間に、複数の医療機関から、一月に30日以上同一の医薬品の処方を受けている者



対象の包含・除外条件

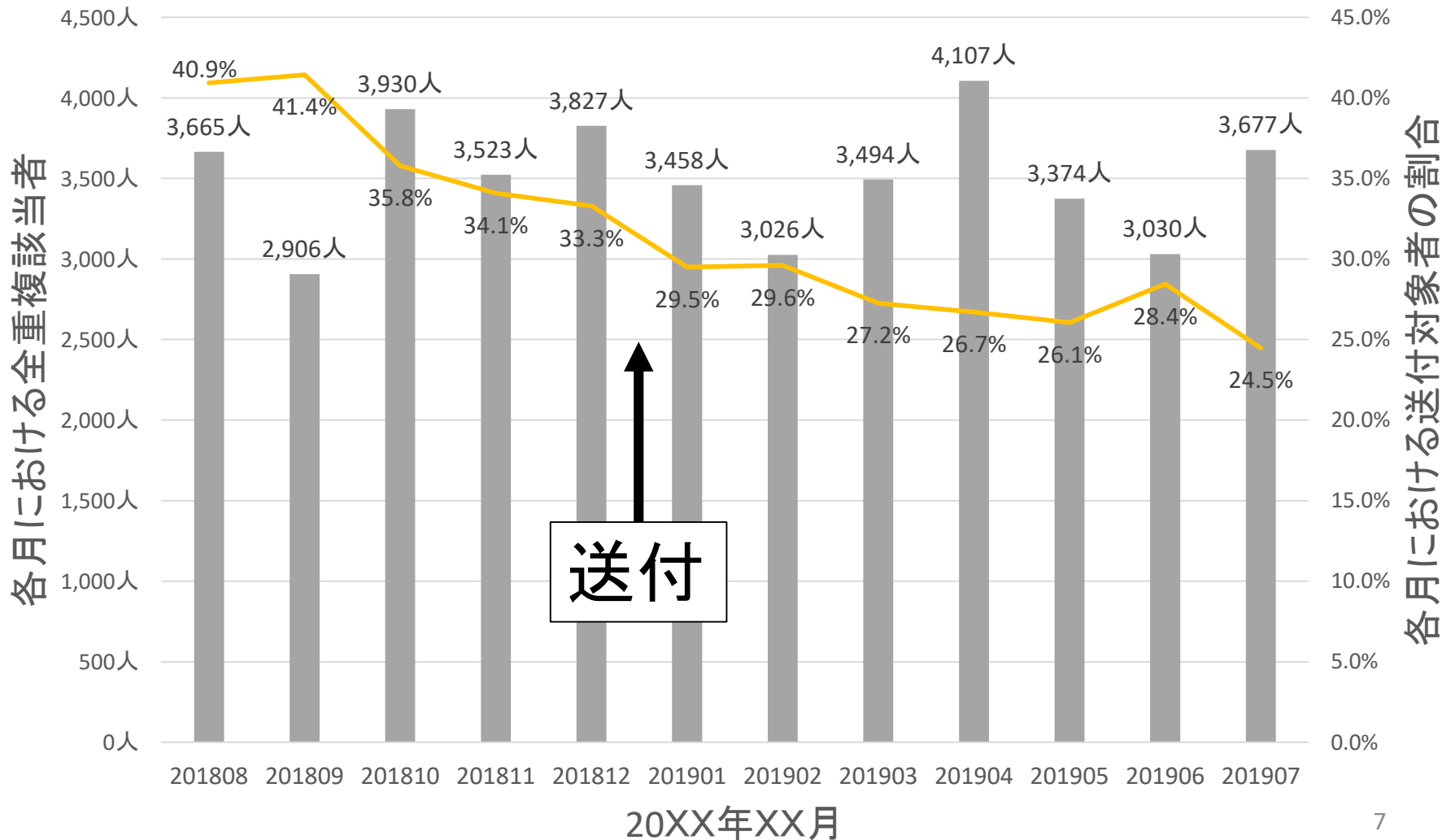
- 送付対象者10,344名、対照群7,516名を抽出
 - 平成29年度以降に被保険者資格を取得した者、送付群926名と対照群916名を除外
 - 令和元年5月までに資格喪失した者、送付群298名と対照群41名を除外
 - 平成29年度の住所地郵便番号が県外である(80-83で始まらない、811-5:壱岐市、817:対馬市)者、送付群4名と対照群14名を除外
- ※871-00、871-08:吉富町、871-09:上毛町は含む
- 最終的に送付群9,116名、対照群6,545名の計15,661名を解析対象とした。

1. 送付対象者の推移

結果①

「各月における重複該当者」及び「そのうちの送付対象者の割合」の推移

■ 重複該当者数 — 送付対象者比率



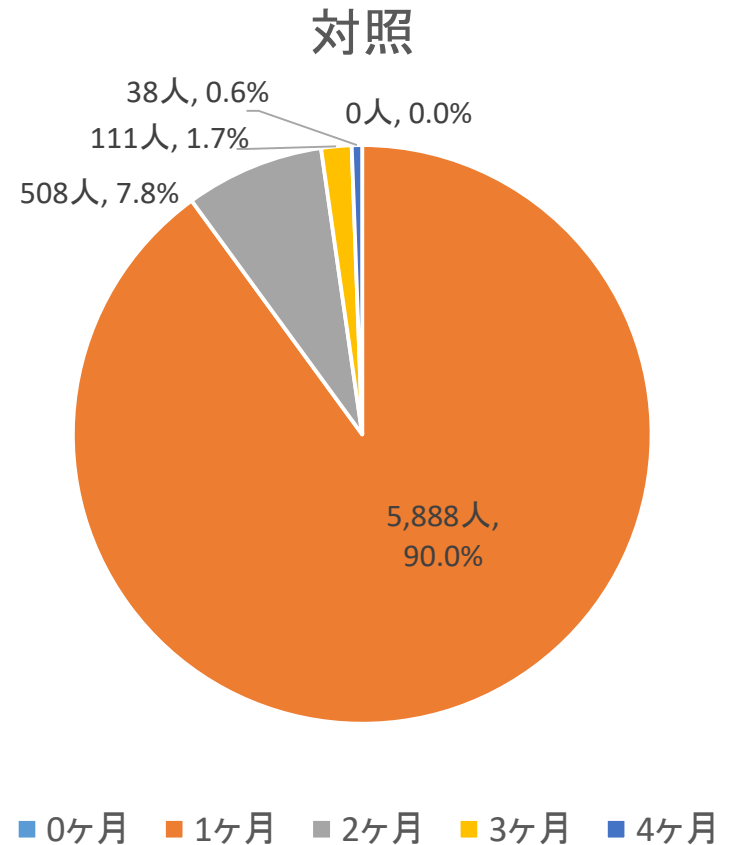
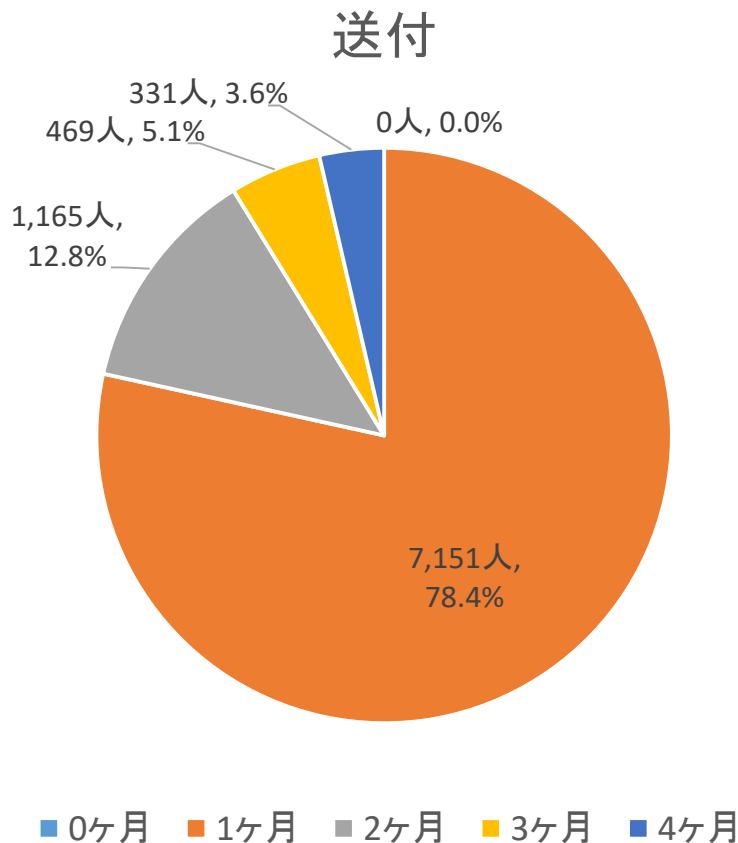
考察①

- 各月における重複該当者（送付対象者以外も含む。）数にばらつきはあるものの、減少傾向はみられなかった。
- 一方で、その中で送付対象者の占める割合は2019年1月以降、減少傾向にあった。（送付は2019年12月）

結果②-1

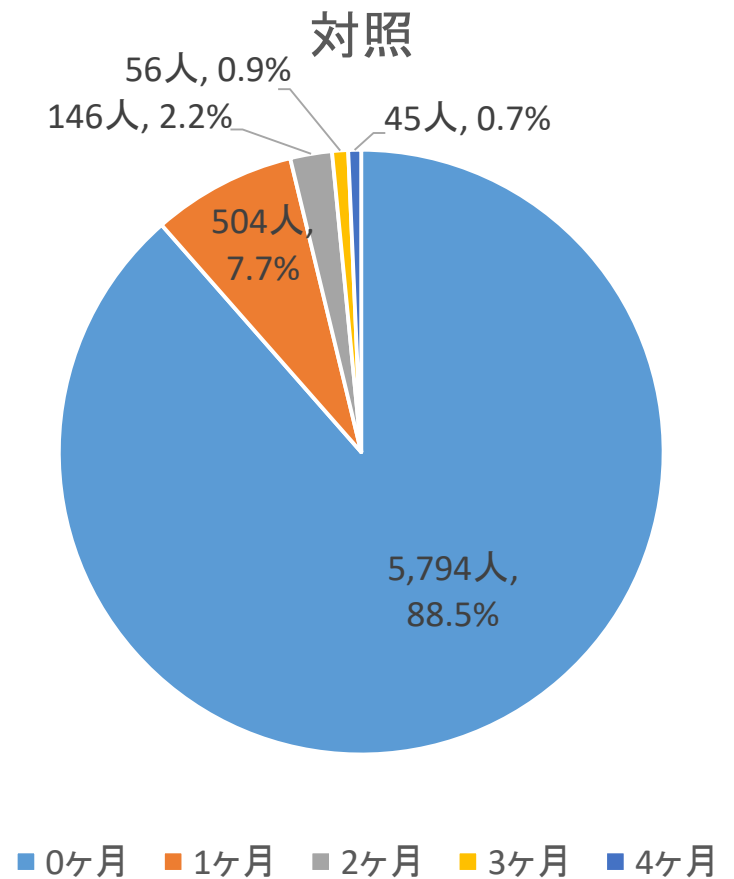
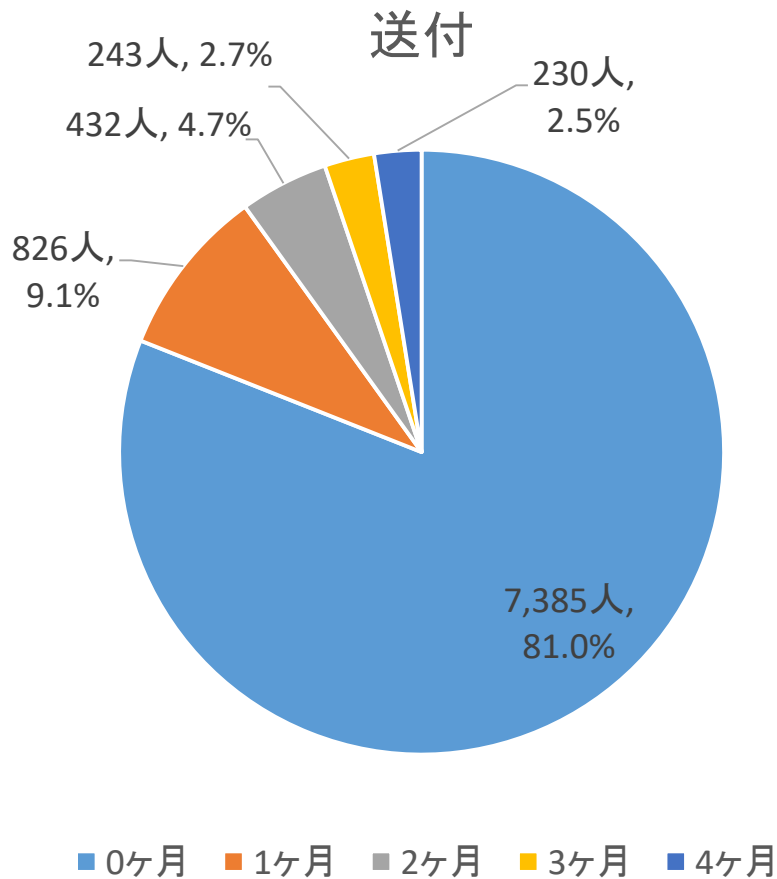
送付前の抽出期間※における重複該当月数

※ 送付群(2018.4~7)、対照群(2018.8~11)



結果②-2

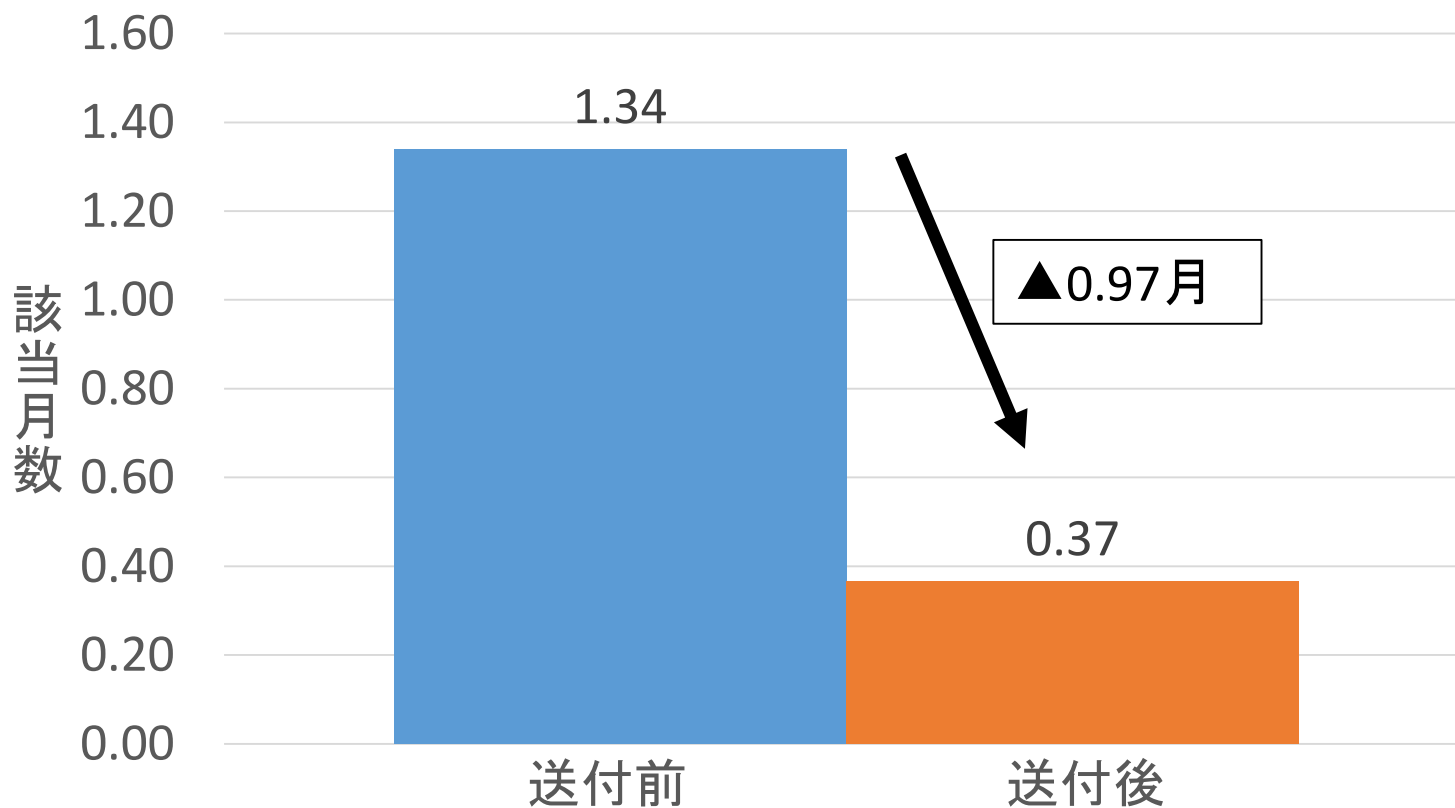
送付後の評価期間(2019.4~7)における重複該当月数



結果②-3

送付群の送付前後の該当月数の変化

送付前後の該当月数の変化
対応のあるt検定: $t=112.78$, $p < 0.001$



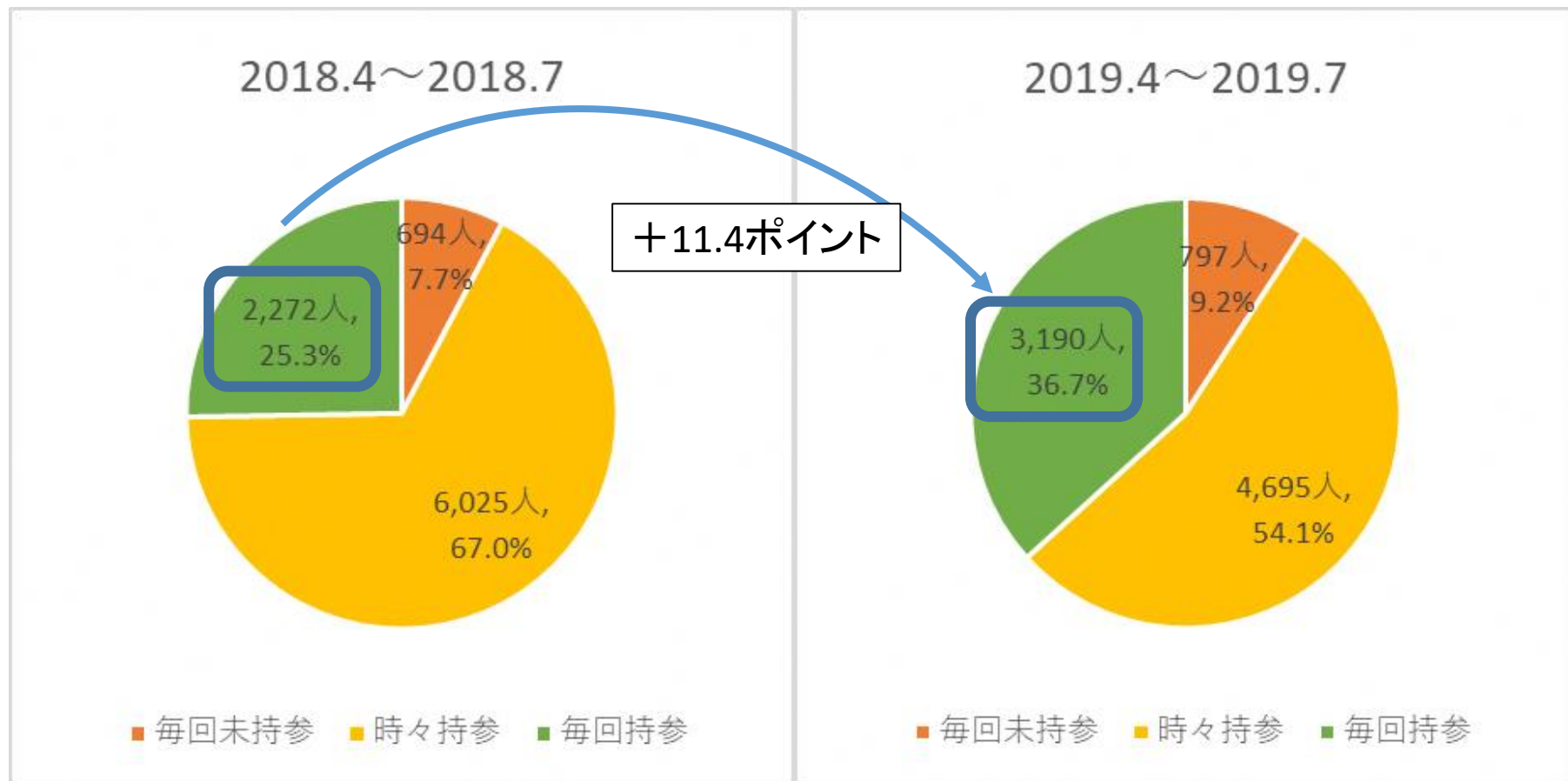
考察②

- 送付対象者の送付前後で重複該当月数を比較した結果、有意に0.97ヶ月程度の減少が見られた。

2. お薬手帳持参状況

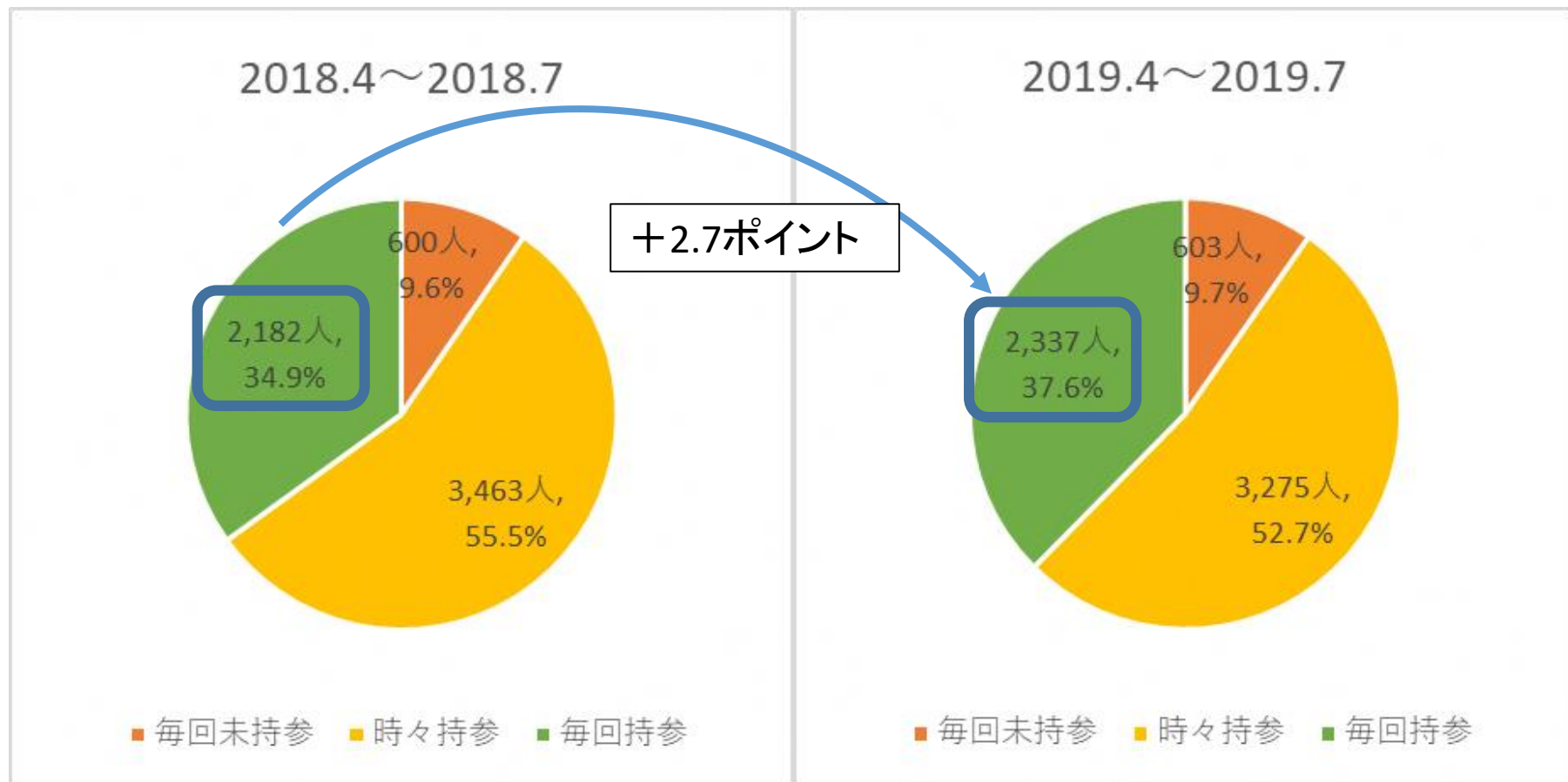
結果①ー1

送付群のお薬手帳持参状況変化



結果①-2

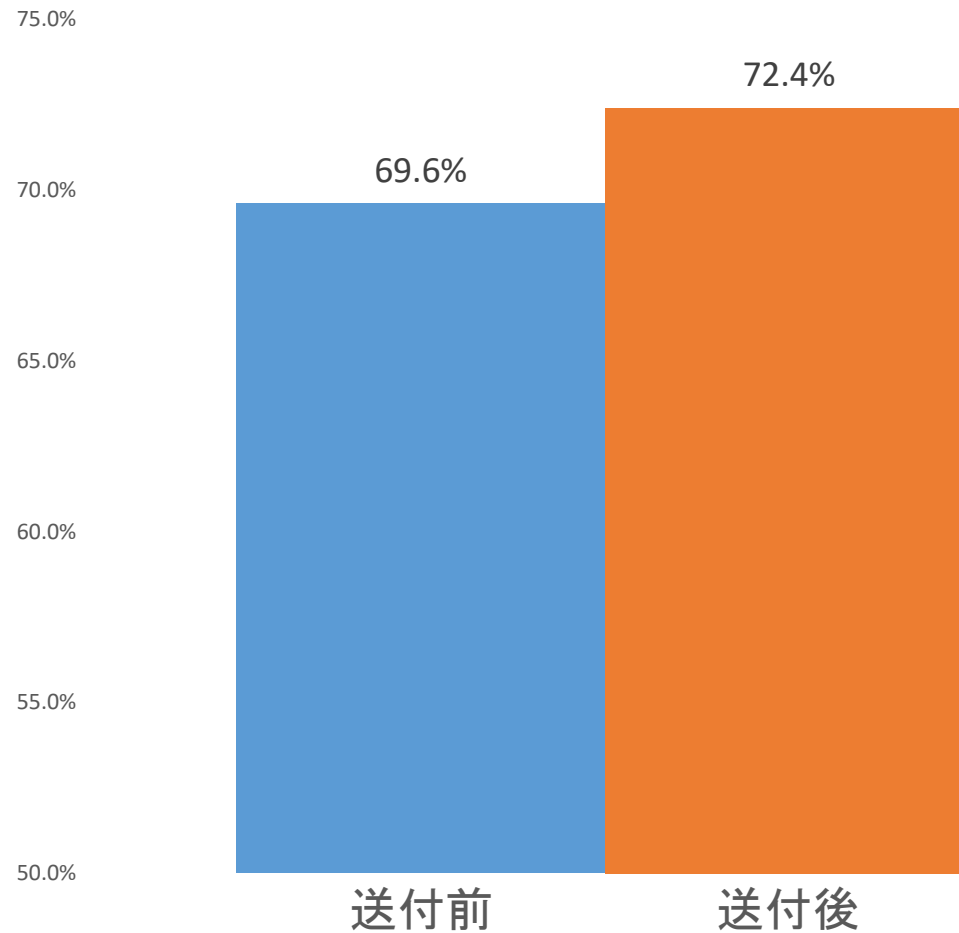
対照群のお薬手帳持参状況変化



結果②ー1

送付対象者の送付前後のお薬手帳持参率※の変化

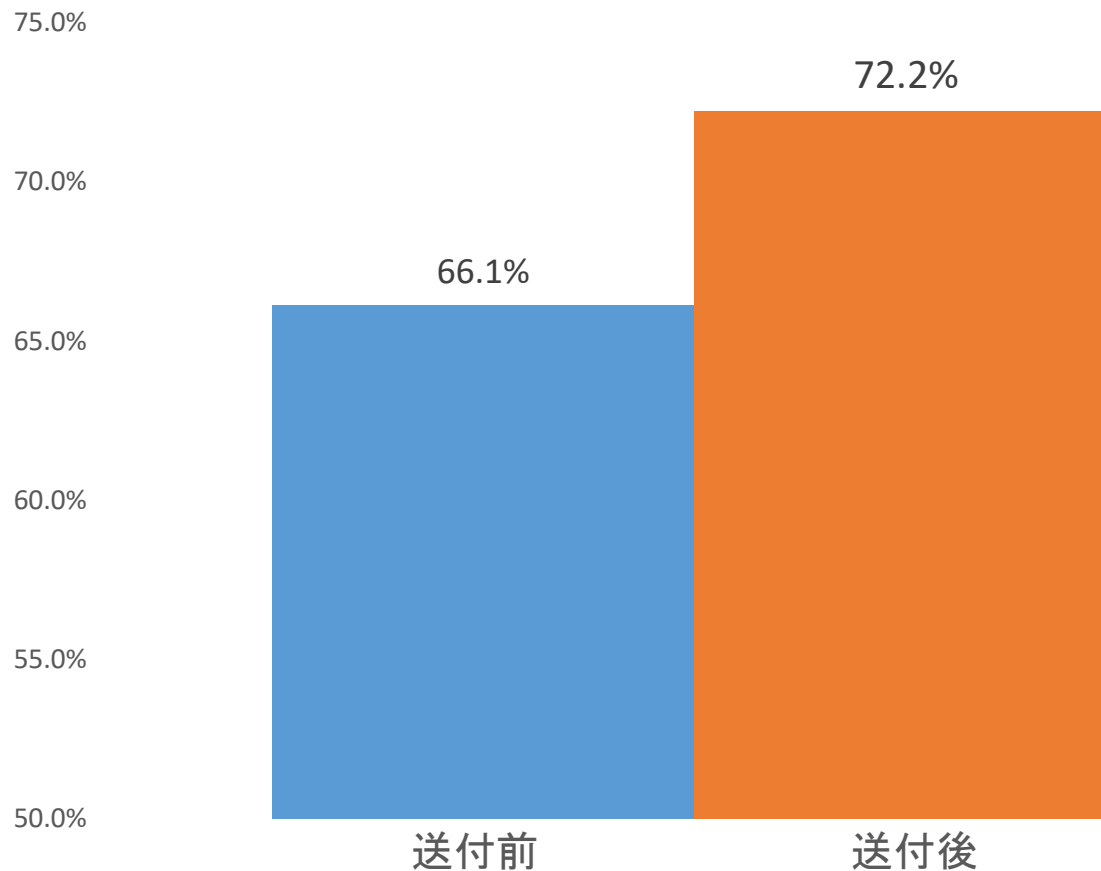
※持参回数/来局回数(毎回持参は100%)



結果②-2

送付対象者のうち手帳を“時々持参”した者の 送付前後のお薬手帳持参率の変化

送付前後のお薬手帳持参率の変化(時々持参)



考察

- 対照群、送付群ともに、毎回未持参の患者割合に変化がほとんどみられなかった。
- 対照群では、毎回持参の患者割合は2.7ポイント増加している一方で、送付群では、11.4ポイントと増加の程度が大きかった。
- 送付群の送付前後でのお薬手帳持参率の変化を比較した結果、有意に増加していた。
- また、送付群の“時々持参”群に絞ってみると、6.1ポイントの増加がみられた。

3. 重複薬剤の状況

結果

一月に複数医療機関から30日以上重複して処方された医薬品（上位20）

送付前

送付後

順位	一般名	減少率	重複該当者数	順位	一般名	重複該当者数
1	プロチゾラム	-44.2%	398	1	ゾルピデム酒石酸塩	247
2	ゾルピデム酒石酸塩	-31.8%	362	2	プロチゾラム	222
3	レバミピド	-66.0%	326	3	エチゾラム	179
4	エチゾラム	-44.6%	323	4	ロキソプロフェンナトリウム水和物	113
5	酸化マグネシウム	-74.0%	319	5	レバミピド	111
6	プレガバリン	-83.8%	302	6	センノシド	99
7	アムロジピンベシル酸塩	-80.1%	286	7	トリアゾラム	96
8	セレコキシブ	-89.9%	278	8	酸化マグネシウム	91
9	メコバラミン	-74.1%	274	9	メコバラミン	71
10	エルデカルシトール	-80.8%	271	10	アムロジピンベシル酸塩	57
11	ロキソプロフェンナトリウム水和物	-55.0%	251	11	エルデカルシトール	52
12	センノシド	-59.9%	247	12	アセトアミノフェン	51
13	アスピリン	-87.8%	222	13	プレガバリン	49
14	アセトアミノフェン	-75.4%	208	14	芍薬甘草湯	44
15	トリアゾラム	-36.4%	151	15	ランソプラゾール	37
16	ランソプラゾール	-74.3%	144	15	L-カルボシステイン	37
17	ピソプロロール, -フマル酸塩	-93.0%	143	16	リマプロスト アルファデクス	35
18	エソメプラゾールマグネシウム水和物	-84.5%	142	17	ファモチジン	33
19	ファモチジン	-75.4%	134	18	センナ・センナ実	31
20	ロスバスタチンカルシウム	-91.6%	131	19	ベタヒスチンメシル酸塩	29
				19	トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン	29
				20	セレコキシブ	28

(減少率) = {(送付後重複該当者数) - (送付前重複該当者数)} / (送付前重複該当者数)

※減少率上位3位には青い網掛けを、下位3位には赤い網掛けをしている。

考察

- 送付前の送付対象者において重複している医薬品成分の上位20位には、痛み止め、BZ系、胃薬、降圧剤が多かった。
- 送付後にどれだけ重複がなくなったかの変化についてみてみると、降圧剤、痛み止めの減少率が大きく、重複解消の程度が大きかった。
- 一方で、BZ系は減少率が少なく、お薬手帳ホルダー及び啓発リーフレットの送付では重複解消の程度は小さかった。